群馬の古墳時代はここから始まった!!

朝倉・広瀬古墳群

埴輪　弾琴男子像

前橋台地につくられた朝倉・広瀬古墳群

前橋市の南東にある文京町、朝倉町、広瀬町、山王町、東善町は旧利根川（広瀬川低地帯）崖上に発達した前橋台地に位置し、北側に高燥な土地が帯状に延び、その南には肥沃な水田が広がっています。昭和２０年代後半から、この崖の上に住宅団地が造られ、昭和３０年代後半から４０年代にかけて団地造成が最盛期を迎えました。団地が造られる以前は桑園や雑木林が残るのどかな田園地帯でした。ここには、いたるところに古墳が残されていました。

昭和１０年に県下一斉に行われた古墳調査によれば、この地区には１５４基の古墳があったと記録され、すでになくなったものもあることから、この数字をかなり上回る古墳が造られていたことでしょう。古墳は４世紀から７世紀までの４００年間にわたって造られました。現在、残されている天川二子山古墳や八幡山古墳、亀塚山古墳は本古墳群を代表する古墳です。

◆榛名山を背景にした朝倉・広瀬古墳群

※広瀬川低地帯と前橋台地…古墳時代には、利根川は広瀬川のところを流れていました。この地域を「広瀬川低地帯」といいます。現在の利根川の流路は中世に変流したといわれています。
※前橋台地の範囲…おおよそ高崎市・前橋市・玉村町の地域にあたります。

表１「上毛古墳綜覧」をもとに集計した古墳数と墳丘の形状

No.	地区名	前方後円墳	前方後方墳	円墳	方墳	不明	合計
1	前橋地区	2	-	4	-	2	8
2	上川淵地区	9	1	101	-	1	112
3	上陽地区	8	-	25	1	-	34
	合計	19	1	130	1	3	154

表２　朝倉・広瀬古墳群の主な古墳一覧表

No.	名　称【綜覧番号】	墳　形	規　模
1	カロウト山古墳【前橋３号墳】	(帆立貝形)	全長 36m
2	不二山古墳【前橋２号墳】	前方後円	全長 54.5m
3	天川二子山古墳【前橋１号墳】	前方後円	全長 104m
4	朝倉天神山古墳【上川淵５号墳】	円	径 43m
5	上川淵 26 号墳	円	径 71m
6	朝倉町円筒埴【記載もれ】		
7	小旦那古墳【上川淵 27 号墳】	円	径 8.5m
8	朝倉滝古墳【上川淵４号墳】	(前方後円)	全長 45m
9	上川淵１８号墳	前方後円	全長 55m
10	朝倉２号墳【上川淵 32 号墳】	円	径 23m
11	長山古墳【上川淵 36 号墳】	前方後円	全長 85m
12	朝倉１号墳【上川淵 40 号墳】	円	径 16m
13	朝倉３号墳【記載もれ】	円	
14	鶴巻塚古墳【上川淵 44 号墳】	前方後円	全長 85m
15	八幡山古墳【上川淵 67 号墳】	前方後方	全長 130m
16	前橋天神山古墳【上川淵 71 号墳】	前方後円	全長 129m
17	上川淵 86 号墳	前方後円	全長 85m
18	飯玉神社古墳【上川淵 97 号墳】	円	径 39m
19	大屋敷古墳【上川淵 104 号墳】	前方後円	全長 89m
20	上川淵 111 号墳	前方後円	全長 50m
21	上川淵 113 号墳	円	径 24m
22	鶴巻山古墳【上川淵 108 号墳】	(前方後円)	径 40m
23	上両家二子山古墳【上陽１号墳】	前方後円	全長 80m
24	オトウカ塚古墳【上陽５号墳】	(前方後円)	径 30m
25	乞食塚古墳【上陽２号墳】	円	径 16m
26	亀塚山古墳【上陽 20 号墳】	帆立貝形	全長 60m
27	上陽 24 号墳	円	径 25m
28	大塚北古墳【記載もれ】	方	1 辺 14m
29	山王大塚古墳【上陽 15 号墳】	円	径 44m
30	山王金冠塚古墳【上陽 14 号墳】	前方後円	全長 53m
31	禅養寺東古墳【記載もれ】	(前方後円)	
32	上陽１２号墳	前方後円	全長 67m
33	文珠山古墳【上陽６号墳】	円	径 50m
34	阿弥陀山古墳【上陽７号墳】	帆立貝形	径 25m
35	狐塚古墳【上陽９号墳】	円	径 25m
36	上陽 10 号墳	円	径 10m
37	上陽 33 号墳	円	径 30m
38	東善大塚古墳【上陽 32 号墳】	(前方後円)	径 35m

※　墳形欄の（ ）は推定である。

『上毛古墳総覧』をもとにした古墳分布

◆朝倉・広瀬古墳群分布図（緑は現存、赤は消滅した古墳）

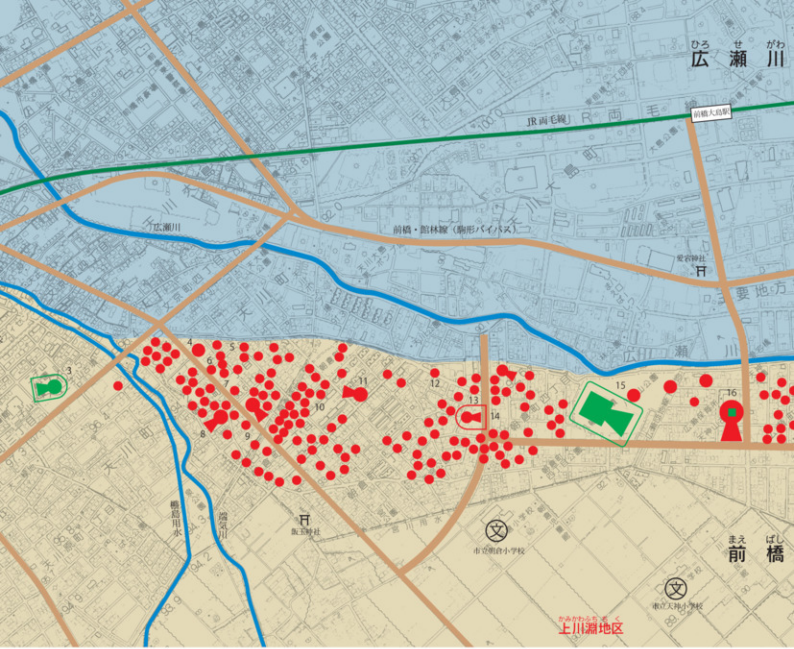
市指定重要文化財　地図1
カロウト山古墳の石棺

所在地　古墳：前橋市文京町２丁目14
所在地　石棺：前橋市三河町２丁目1-3　前橋市立中川小学校
大きさ　外寸：全長2.09m、幅0.98m、高さ0.72m
　　内寸：全長1.62m、幅0.4～0.42m、深さ0.3m

◆カロウト山古墳の石棺（左のみ）

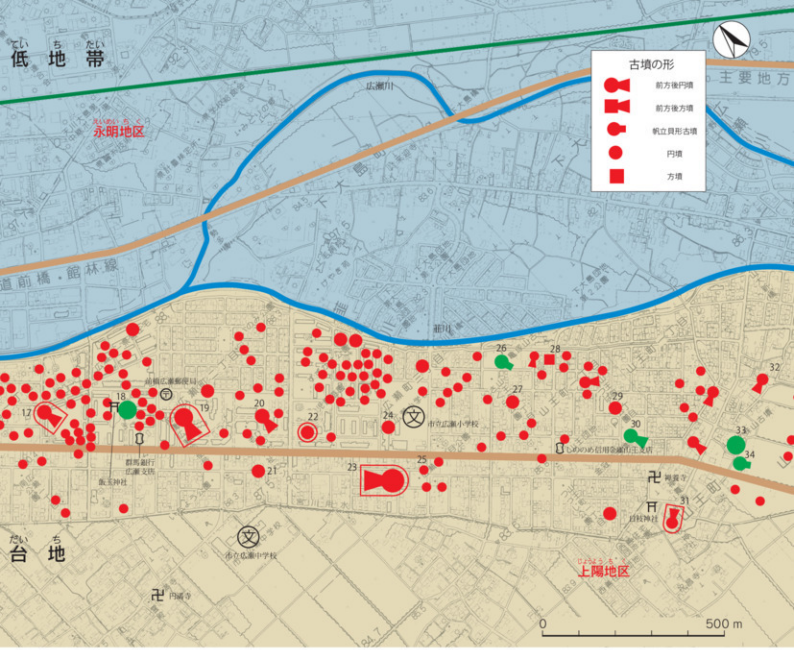
カロウト山古墳は、前橋市文京町２丁目14番地にあった帆立貝形古墳です。石棺は大きな凝灰岩を箱型にくりぬいて作られ、この古墳の竪穴式石室の中にありました。本来は、蓋と身で一対になりますが、現存するのは身だけです。現在は中川小学校校庭にある覆屋の中に保管されています。

※竪穴式石室…墳丘を掘りこんで、石を積み上げてかべを造り、天井を石でふさいだ石室



◆朝倉・広瀬古墳群分布図（緑は現存、赤は消滅した古墳）台地に沿って古墳群が連なっています。前方後方墳や前方後円墳、帆立貝形古墳の主軸方位は一定していません。

◆上空からみた朝倉・広瀬古墳群の主要古墳。写真上にある河川は広瀬川です。かつては利根川が流れ、朝倉・広瀬古墳群が広がる前橋台地よりも3m ほど低くなっています。



※分布図は、『上毛古墳綜覧』に記録された古墳台帳もとにして作成しました。その位置はおおよそのものもあります。

※写真上部の旧利根川（広瀬川）の流路が前橋台地の崖線をつくっています。写真中央の住宅地は高燥地で、かつての墓域にあたります。写真下部の水田地帯は古墳時代にひらかれた生産域にあたります。農民たちの居住域は水田地帯の中にありました。

◆朝倉・広瀬古墳群分布図（緑は現存、赤は消滅した古墳）

地図 33

文珠山古墳（もんじゅやまこふん）

所在地　前橋市山王町 77
形　状　円墳
時　期　4世紀前半～中葉
規　模　全長 50 m

朝倉・広瀬古墳群の南端部分にあります。平成７年の発掘調査で、墳丘全体に川原石を敷き詰め、壺を墳頂に並べた大形の円墳であることが分かりました。南西には径 25 m、高さ４mの帆立貝形古墳である阿弥陀山（あみだやま）古墳があります。

◆文珠山古墳

市指定史跡　地図 25

亀塚山古墳（かめづかやまこふん）

所在地　前橋市山王町１丁目 28-3
形　状　帆立貝形古墳　　時　期　５世紀末～６世紀初頭
規　模　全長 60 m（後円部径 40 m、高さ 6.5 m、造出部長 20 m、高さ 1.5 m）

◆亀塚山古墳

亀の形を思わせることから、この地では古くから亀塚と呼ばれてきました。墳丘は２段に造られ、斜面には葺石を敷きつめ、埴輪が並べられていました。昭和１０年の調査で周濠（しゅうごう）が確認されていますが、現在では住宅建設などによりその痕跡をとどめていません。埋葬施設は竪穴式と推定されますが、副葬品などは明らかではありません。

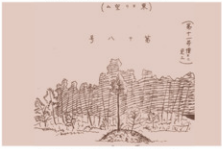
『上毛古墳綜覧』調査簿に残された古墳のスケッチ

昭和１０年に県下一斉に行われた古墳調査では、古墳１基ずつの台帳が作成されました。その台帳には、丹念に描かれた見事なスケッチが残されています。すでに市街地化された朝倉・広瀬地区のかつての風景である桑園や雑木林に囲まれた懐かしい記憶が蘇ってきます。

朝倉天神山古墳　地図 4

飯玉神社古墳　地図 18

上両家二子山古墳　地図 23



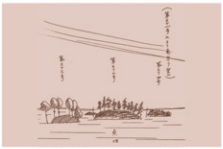
上川淵 18 号古墳　地図 9

『上毛古墳綜覧』 1938　群馬県発行

山王金冠塚古墳　地図 30

朝倉１号墳　地図 12

文珠山古墳　地図 33



朝倉２号墳（中央）　地図 10

鶴巻山古墳　地図 22

大屋敷古墳　地図 19

長山古墳　地図 11

八幡山古墳　地図 15

前橋天神山古墳　地図 16

国指定史跡　地図 15

八幡山古墳（はちまんやまこふん）

所在地　前橋市朝倉町４丁目 9-3
形　状　前方後方墳　　時　期　４世紀初頭
規　模　全長 130 m（後方部幅 72 m、高さ 12 m、前方部幅 59 m、高さ 8 m）

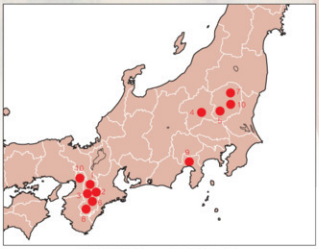
全長１３０mを誇る八幡山古墳は、前方後方墳（ぜんぽうこうほうふん）としては全国第４位の大きさで、東日本では最大規模を誇ります。弥生時代に、ほとんど人の手が入らなかった「ケノ」と呼ばれていたこの地域一帯の肥沃な平野を開拓し、国づくりをなしとげた首長（しゅちょう）の墓と考えられます。

横から見ると前方後円墳と同じ墳形に見えますが、八幡山古墳は、四角と四角を組あわせた形状をしていることから、前方後円墳とは区別して、前方後方墳と呼んでいます。

しかし、前方後方墳は前方後円墳に比べその数は少なく、ヤマト王権では中心的な存在ではありませんでした。これは、前方後方墳が弥生時代終わりの東海地方の方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）から変化して生まれたことによります。３世紀後半の倭国大乱（わこくたいらん）のあと、ヤマト王権に参入した東海地方西部から広まった古墳であったからと考えられます。４世紀になると、前方後円墳に先行し、九州から東北地方南部まで伝わりましたが、特に東日本では、前方後方墳が主要な地域に出現しました。これは、前方後方墳を造営した氏族がヤマト王権の列島経営のために各地に進出したからと考えられます。

※ケノ…群馬はかつて「ケノ」と呼ばれていました。毛野（けの）は、のちに上毛野（かみつけの）（群馬県）、下毛野（しもつけの）（栃木県）に分割され、平安時代には上野（こうずけ）、下野（しもつけ）に改められました。

◆上空からみた八幡山古墳　古墳の奥にある広瀬川より、むこうには旧利根川が流れていた。



◆前方後方墳ベスト 10 の分布

表 3　前方後方墳ベスト１０

順位	古墳名	墳丘長 (m)	所在地
1	西山古墳	185	奈良県天理市
2	波多子塚古墳	144	奈良県天理市
3	新山古墳	137	奈良県北葛城郡広陵町
4	八幡山古墳	130	群馬県前橋市
5	勝本観音山古墳	117	栃木県足利市
6	下池山古墳	115	奈良県天理市
7	上侍塚古墳	114	栃木県那須郡湯津上村
8	フサギ塚古墳	110	奈良県天理市
9	浅間山古墳	103	静岡県富士市
10	紫金山古墳	100	大阪府茨木市
10	大舛塚古墳	100	栃木県下都賀郡藤岡町

◆八幡山古墳

◆八幡山古墳　右の前方部よりも左の後方部が 4 m 程高い。

県指定史跡　地図 16

前橋天神山古墳

所在地　前橋市広瀬町１丁目 27-7
形　状　前方後円墳　　時　期　４世紀前半
規　模　全長 129 m（後円部径 75 m、高さ９m、前方部幅 68 m、高さ７m）

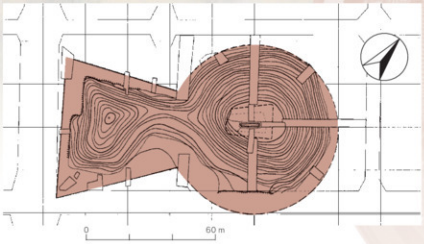
前橋天神山古墳は、広瀬保育所に隣接し、今では前方後円墳の中心部である粘土槨のみが保存されています。かつて全長１２９mの雄姿を誇った前橋天神山古墳は、４世紀前半から中頃に旧利根川（現広瀬川）を背景にして、前方部を水田が拡がる平野に向けて築かれました。３段で造成された径７５mの後円部に前方部が張り出すように造られた鍵穴形をした墳丘が特徴です。初期前方後円墳では東国最大の古墳で、ヤマト王権の王の墳墓として造られた崇神陵古墳や景行陵古墳などと良く似た墳丘です。前橋天神山古墳は、日本列島の経営に乗り出したヤマト王権と政治的結びつきを強めて、八幡山古墳の首長の地位を受け継いで、毛野国の基礎を築いた首長の墳墓と思われます。

◆粘土槨　土塁状の高まりが粘土槨。人と比較すると、長大さがわかる。

前橋天神山古墳はヤマト王権の大王に次ぐクラスの前方後円墳です。王を埋葬した粘土槨は長大な木棺を安置できる大規模なものでした。副葬品は銅鏡５枚をはじめとして、紡錘車形石製品、銅鏃、鉄製武器類（大刀５・剣 12）、鉄製農工具類（斧３・鉇８、鑿３、釣針５）など、豊富な内容です。

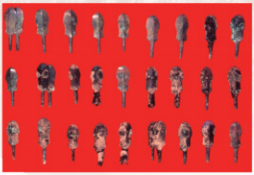
墳頂部には赤く塗彩した底部に丸い穴をあけた葬送用の壺が並べられていました。

※粘土槨…墓に埋めた棺を粘土で丁寧に覆った施設



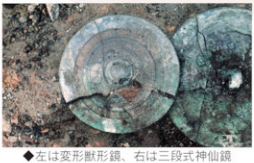
◆前橋天神山古墳

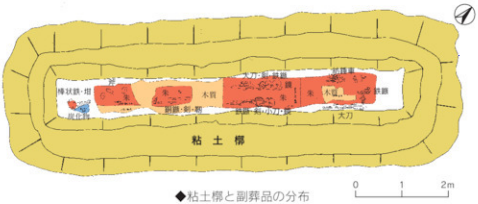
◆現地に保存された粘土槨


◆銅鏃

◆二角縁四神四獣鏡

◆三角縁五神四獣鏡


◆左は変形獣形鏡、右は三段式神仙鏡



◆粘土槨と副葬品の分布

◆かつての前橋天神山古墳の雄姿。右の前方部に比べ左の後円部を高く造るのがこの時代の古墳の特徴

国指定史跡　地図3

天川二子山古墳（あまがわふたごやまこふん）

所在地　前橋市文京町３丁目26
形　状　前方後円墳　　時　期　６世紀中ごろ
規　模　全長104ｍ（後円部径72ｍ、高さ11ｍ、前方部幅86ｍ、高さ9.5ｍ）

天川二子山古墳は、萩原朔太郎の「二子山附近」という詩にも登場します。大正時代、のどかな二子山古墳付近の田園の情景が描かれています。現在、市街地化が進みましたが古墳は公園になっていて、造られた当時の形状をよく残しています。墳丘は、２段に構築されていて、後円部にたいして前方部が大きく発達した形が特徴です。墳頂部と中段にめぐらせた平坦面には埴輪類が並べられていました。主体部は横穴式石室と推定されますが、副葬品とともにその詳細はわかっていません。６世紀後半代に前橋台地に強大な勢力を誇った豪族、日本各地の大化改新（たいかかいしん）関連の記事に出てくる朝倉（あさくら）氏の祖父、あるいはその一族の有力豪族の墳墓とするのがふさわしい古墳です。

市指定史跡　地図2

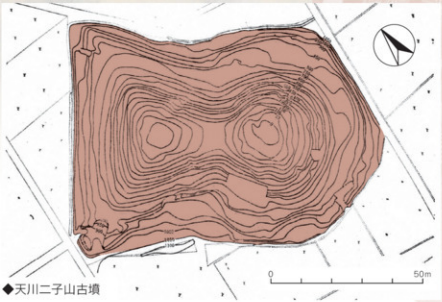
不二山古墳（ふじやまこふん）

所在地　前橋市文京町３丁目2
形　状　前方後円墳　　時　期　６世紀後半
規　模　全長54.5ｍ（後円部径30ｍ、高さ7ｍ、前方部幅38ｍ、高さ6ｍ）

不二山古墳は天川二子山古墳の北西約６００ｍにあります。周囲を住宅造成によって削り取られていますが、良好な形で残されています。墳丘は天川二子山古墳の半分の大きさであり、平面形も相似形（そうじけい）です。石室は角閃石安山岩（かくせんせきあんざんがん）を加工して積んだ横穴式石室ですが、崩れてしまったため見学ができません。金銅製の冠（かんむり）のほか直刀（ちょくとう）、槍（やり）、鉄鏃（てつぞく）、耳環（じかん）、玉（たま）、須恵器（すえき）などが出土しています。２つの古墳は隣接し、築造時期が近いこと、平面相似形の墳形であることから豪族同士の密接な関係がうかがえます。

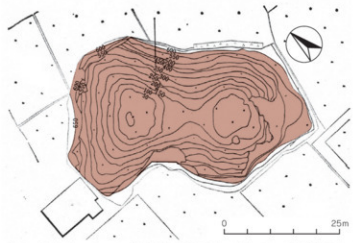
※横穴式石室…横方向に開口する石積みの墓室。石室とそれに連絡する通路で構成され、石積みの壁と天井石でつくる。

◆天川二子山古墳　　左が前方部、右が後円部



◆天川二子山古墳

◆不二山古墳出土の冠



◆不二山古墳　2つの古墳は規模が異なるが、平面形が共通する。

◆不二山古墳　左が前方部、右が後円部

◆南からみた天川二子山古墳　左の前方部と右の後円部の高さがほぼ同じ

市指定史跡　地図 30

山王金冠塚古墳

所在地　前橋市山王町１丁目 13-3
形　状　前方後円墳　　時　期　６世紀後半
規　模　全長 53 m（後円部径 33 m、前方部幅 42 m）

山王金冠塚古墳は、朝倉・広瀬古墳群の南部にある６世紀後半の前方後円墳です。大正４年に金銅製の冠が、金銅製大帯、馬具類、鉄製甲冑、刀装具類などとともに出土したことからこの名称がつけられました。これらの出土品は貴重なため、一括して東京国立博物館に納められました。昭和５６年に史跡整備を行なうため発掘調査がなされ、２段に造られた墳丘から、円筒埴輪をはじめ靫、家、大刀、盾、馬、人物などの埴輪が出土しました。また、横穴式石室も調査され、榛名山から噴出した角閃石安山岩を四角に削り出して積んだ石室であることが分かりました。山の字を重ねたような立ち飾りを持つ形式の冠は全国でも珍しく、確実なものはこの１例だけです。この冠は、朝鮮半島三国時代の新羅王墓である天馬塚や瑞宝塚などに副葬された金冠に系譜が求められます。

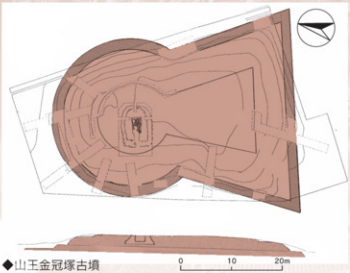
群馬県内では金銅製の冠は、本古墳をはじめ不二山古墳、小泉大塚越３号墳（玉村町）など中規模の古墳から出土した１０例が知られています。

※角閃石安山岩…　榛名山起源の岩石で、６世紀に噴火したものが古墳の石室に使われます。

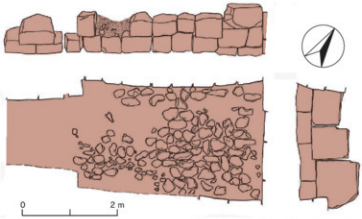
◆山王金冠塚古墳　左が後円部、右が前方部

◆山王金冠塚古墳の冠（東京国立博物館蔵）

◆市民ボランティアによって復元された冠



◆山王金冠塚古墳



◆角閃石安山岩を使った石室

◆山王金冠塚古墳の石室

最近の発掘調査から

水田の下から発見された古代のムラ長の墓　公田東遺跡

県下最大といえる上川淵、下川淵地域の広大な水田地帯は、古墳文化の開幕とともに、荒野が切りひらかれ、村がつくられ、水田の整備が進められました。これらのことを示す遺跡が近年の北関東道をはじめとする発掘調査で次第に明らかになってきています。

初期ヤマト王権のもとで地域を統括した首長の大型古墳は、旧利根川に沿う朝倉・広瀬古墳群の地を選んで設けられました。一方、水田の開発を直接になった農民たちの墓は、水田地帯に点在する村落の隣に造られました。このような墓が見つかったのが前橋市公田町の公田東遺跡です。

公田東遺跡は、県道長瀞バイパスの調査で発掘され、朝倉・広瀬古墳群の南西約３km にあります。この遺跡からは水田耕作を行った人々のムラや墓の跡が多数、見つかりました。発掘された墓の中でも、鶏形土製品が出土した１号墓は前方後方形の大きな周溝墓であることから村のムラ長の墓と思われます。

ムラ長の墓。１号墓。（群馬県埋蔵文化財調査事業団提供）

１号墓に供えた土器群（群馬県埋蔵文化財調査事業団提供）

１号墓に供えた鶏形土製品（群馬県埋蔵文化財調査事業団提供）

◆関連施設一覧表

No.	名称	所在地	電話	開館時間	休館日
1	前橋市文化財保護課総社ギャラリー	前橋市総社町 3-11-4	027-280-6511	8:30～17:15	土・日・祝日
2	総社資料館	前橋市総社町総社 1583-2	027-280-6511	不定期	見学希望者は要連絡
3	上川淵地区郷土民俗資料館	前橋市上佐鳥町 382-1	027-265-1836	10:00～17:00	水・土曜日以外
4	玉村町歴史資料館	佐波郡玉村町大字福島 325	0270-30-6180	10:00～16:00	月・火・水曜日、祝日年末年始
5	相川考古館	伊勢崎市三光町 6-10	0270-25-0082	9:30～16:30	月曜日（祝日を除く）、12/30～1/3
6	伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館	伊勢崎市西久保町 2-98	0270-63-0030	9:00～17:00	月曜日、祝日の翌日、12/29～1/3、臨時休館日有り
7	大室はにわ館	前橋市西大室町 2510	027-268-0439	9:00～16:00	4月～11月　月～水曜日（祝日は除く） 12月～3月　月～金曜日（祝日は除く） 年末年始
8	前橋市粕川歴史民俗資料館	前橋市粕川町膳 48-1	027-230-6388	10:00～16:00	月・火曜日（祝日の場合は翌平日） 年末年始

交通のごあんない

- ＪＲ前橋駅から日本中央バスで広瀬東善線に 20 分乗車、八幡山下車。徒歩５分
- ＪＲ前橋大島駅から前橋天神山古墳まで徒歩約 15 分
- 北関東自動車道　前橋南 I.C から約 5Km（車で 10 分）
- 北関東自動車道　駒形 I.C から約 5Km（車で 10 分）

さあ古墳めぐりに出発だ（参考１日コース）

JR 前橋駅 —2km— 天川二子山古墳 —2.2km— 八幡山古墳 —0.5km— 前橋天神山古墳
—2.3km— 文珠山古墳・阿弥陀山古墳 —0.3km— 山王金冠塚古墳 —0.6km— 亀塚山古墳 —2.5km— JR 前橋大島駅

◆画像提供／前橋天神山古墳出土三角縁五神四獣鏡三次元計測画像：東京国立博物館・奈良県立橿原考古学研究所、朝倉町出土埴輪弾琴男子像：相川考古館、稚名山を背景にした朝倉・広瀬古墳群：梅澤重昭氏、金冠塚古墳出土の冠：東京国立博物館、公田東遺跡の１号墳・土器群・鶏形土製品：群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬の古墳時代はここから始まった

朝倉・広瀬古墳群

平成２７年３月発行
前橋市教育委員会事務局文化財保護課
371-0853　前橋市総社町三丁目１１－４
電話　027－280－6511
E-mail bunkazai@city.maebashi.gunma.jp